

アグリ | ワーク | ポイント



果樹林産センター 鈴木 大造

着果管理

9月になると養分の使われ方が、果汁蓄積に移り始めます。摘果時期が遅れると糖度上昇効果が少なくなるので、後期摘果は短時間でいきましょう。

摘果時期

9月中旬頃～10月中旬までに極小玉果、内すそ果、傷果、腰高果等を摘果します。品質向上のため、1樹を短時間で**適正葉果比（30～35枚/1果）**に近づけましょう。

浮皮軽減対策

浮皮軽減対策の基本は、**適正な着果管理と適期収穫**です。収穫までに適正葉果比に仕上げ、貯蔵用果実であれば7～8分着色で収穫してください。

9月中下旬にジベレリン液剤1～3ppm+ジャスモネート液剤2000倍を混用散布します。浮皮軽減効果は高いですが、着色が遅延するため、初めて散布する際は営農指導員へ相談してください。

マルチ被覆後の管理

マルチ被覆後は、強い水分ストレスがかかります。葉が巻き始めたら、マルチをめくり雨水を入れるか、かん水などを行ってください。

台風対策

事前対策

防風ネットや排水路を点検・整備し、マルチの補強と枝折れ防止用に支柱でしっかり固定してください。かような病の発生が心配される場合は、防除しましょう。
・バリダシン液剤5 500倍（14日～4回）

事後対策

潮風害を受けた時は、塩分を流すために日があたる前までに樹体に散水（2～3t/10a）します。枝折れや裂けた部分は切り、接ぎ口を塗布してください。

病害虫防除

病害虫が遅くまで発生する傾向にあるので、適期防除に努めましょう。なお、黒点病防除後、30日経過するか累積降雨量が250mmになった時点で、再防除を行ってください。

- ・黒点病 ペンコゼブ水和剤 500倍（30日～4回）
- ・チャノキイロアザミウマ
- ・スタークル顆粒水溶剤 2000倍（前日～3回）
- ・ミカンハダニ

ダニコングフロアブル 4000倍（前日～1回）
または、

ダニエモンフロアブル 5000倍（7日～1回）
※ミカンサビダニが心配される場合は、ダブルフェースフロアブルに変更

※果皮障害軽減を目的にバイカルティ1000倍を混用